

# 新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）

## 具体的使途や実施体制、効果検証の結果等について

### 事業名：西田幾多郎記念哲学館デジタル技術によるグローバル社会とインバウンド・バリアフリー対応事業

#### ■事業概要

実施年度	令和7年度-令和9年度
事業概要	<p>【①WEB会議システムの導入によるハイブリッド型イベントの開催や研究機関との連携強化】                  哲学館での哲学講座、読書会、講演会等は300名を収容できる哲学ホールで実施している。                  WEB会議システムを導入し、国際シンポジウムや講演会をハイブリッド形式で開催し遠隔地からでも参加ができる環境を整備する。オンラインとオフラインのハイブリット型イベントを実施することで、新たな来館者層を開拓し哲学館の活動をより広範囲に周知することにより、将来的な来館者数の増加を図るとともに、デジタル技術を駆使した新しい形態の展示やイベントを提供する。                  また、WEB環境の整備による研究活動や情報交換を促進し、全国の大学や研究機関において効率的に連携を図ることができ、哲学の研究や教育を促進する。</p> <p>【②展示音声ガイドアプリの導入】                  展示音声ガイドアプリの導入で多様な文化背景を持つ外国人訪問者にも理解しやすく、展示動画への字幕と手話動画を追加することで、障がい者を含む全ての来館者に配慮することができ、訪問者の満足度向上を図る。また、展示音声ガイドアプリは来館者が自分のスマートフォンを使って音声ガイドを利用できるため、展示物の情報も手軽に取得が可能となり、来館者のベースで鑑賞を楽しんでもらうことで満足度の向上を図る。</p>
目的（効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内で唯一の哲学の博物館における通信環境を整備し、イベント開催を通じて、国際的な研究者との交流の促進やオンライン配信によって国内外に対し哲学の普及を進めることにより、効果的に関係人口の拡大を図る。</li> <li>西田哲学資料のデジタル化に伴い、展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」等を導入し発信することで、国内外に対し歴史的に貴重な資源に触れる機会を創出し、インバウンド及びバリアフリー対応の強化を図る。</li> <li>本事業の整備により、哲学館を中心とした関係人口、交流人口の創出を図り、本市の更なる認知度を向上させ、市内における観光消費額の増加を目指す。</li> </ul>

#### ■実施体制

名称	役割
かほく市生涯学習課 石川県西田幾多郎記念哲学館	事業計画の立案、管理・統括、運用
地元企業	地元企業との連携で新たな誘客につながるイベント等の開催
連携博物館	相互の事業展開において新たな誘客につながるイベント等を連携し開催
市内外小・中学校 県内外の大学	学校と連携した事業への児童・生徒の参画。大学との共同による学生参加型授業を実施
地域FM	事業に関する情報を発信してもらう
ボランティア	西田幾多郎の歌にちなんだ花や木を植栽し案内板から歌の風景の情報を発信してもらう

#### ■具体的使途（令和7年度分・経費内訳）

項目	金額（千円）
国際哲学シンポジウム開催（国外講師謝礼、会場設営・運営経費、PR用ポスター・チラシ印刷費）	555
西田幾多郎没後80年記念事業（企画展開連講演会、ポスター・チラシ印刷費、借用資料保険料）	1,139
WEB会議システム導入（工事費・機材費）	4,730
交付対象事業費計	6,425

# 新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）

## 具体的使途や実施体制、効果検証の結果等について

### 事業名：西田幾多郎記念哲学館デジタル技術によるグローバル社会とインバウンド・バリアフリー対応事業

#### ■効果検証の結果

KPI(指標) 基準値（令和6年度）	目標値（上段）			直近のKPIに対する評価 及び次年度以降に向けた取組
	実績値（下段）			
	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	
①市内観光消費額 （百万円）	5,223	5,260	5,320	<p>（評価）</p> <p>産業施設と文化施設、近隣の飲食店等とあわせて観光プランを組むケースが増えており、哲学館見学も組み込んだプランのツアーや大学の研修を行う事例を複数確認した。</p> <p>（次年度以降取組）</p> <p>他市町の文化施設等とも連携し、より積極的に利用してもらえるようインバウンド・バリアフリー対応を継続して進めていく。</p>
	5,859			
②講演会等の参加者数 （人）	1,600	1,650	1,700	<p>（評価）</p> <p>年間を通して開催される哲学講座や講演会、読書会等には、県内外から幅広い年齢層の方に参加いただいている。哲学館ならではのコンテンツに魅力を感じていただき、例年並みの参加者数を獲得しているが、目標値にはわずかに及ばない結果となった。</p> <p>（次年度以降取組）</p> <p>来館者のニーズに応えていけるよう、引き続き多様なテーマの講演会等の催しを開催していく。また、講演会等をハイブリッド開催することでさらなる参加者の獲得を図る。</p>
	1,522			
③オンラインでの参加 視聴者数（人）	350	500	650	<p>（評価）</p> <p>1年目は環境整備が中心となっており、国際シンポジウム・西田哲学会年次大会（哲学館で事務局を担っている）以外の催事については、オンラインまたはハイブリッドの催しを開催しなかったため、増加分が目標値を大幅に下回る結果となっている。</p> <p>（次年度以降取組）</p> <p>これまで利用者から多数要望のあった哲学講座等の催しをハイブリッド形式で開催する。また、オンライン設備を活用して、学校や企業に対する出前講座の実施も検討していく。</p>
	48			

# 新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）

## 具体的用途や実施体制、効果検証の結果等について

### 事業名：西田幾多郎記念哲学館デジタル技術によるグローバル社会とインバウンド・バリアフリー対応事業

#### ■効果検証の結果

KPI(指標) 基準値（令和6年度）	目標値（上段）			直近のKPIに対する評価 及び次年度以降に向けた取組
	実績値（下段）			
	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	
④利用満足度調査結果 （%）	82	83	85	（評価） 各講座の参加者にアンケート調査を行っている。哲学は難しいと感じる方が多い中、難解な話をわかりやすくきけた、新たな発見があった等、満足度の高い意見を得ることができた。 （次年度以降取組） 難解なものからカジュアルなものまで、幅広い講座を開催し、高い利用満足度を継続していく。
	91.8			
⑤外国人等の入館者数 （人）	500	550	600	（評価） 外国人来館者数は、令和6年度には314人、令和7年度には388人となっており、増加傾向にある。アメリカ、ドイツ、スイス、台湾、韓国からの訪問者が主だが、その他の国からの訪問もある。また、鈴木大拙館との相互利用をされる方もいる。入館後、墓参するケースもあり、西田幾多郎への深い興味がうかがえる。 また、障がい者およびその介助者の入館者数についても、令和7年度は前年度比+112人の355人となっており、増加傾向にある。 （次年度以降取組） 展示物の多言語・バリアフリー対応により、訪問者が西田哲学をより深く理解できるようにしていく。また、国際的な交流やより多様な視点からの意見・発想が集まるよう、PRしていく。
	743			